

<伝染性紅斑とは>

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 (human parvovirus B19) による感染症です。皮膚の発疹を主症状とします。

原因と感染経路

病原体は、ヒトパルボウイルス B19 です。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる感染（飛まつ感染）、あるいは、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる感染（接触感染）があります。

症状

約 10 日（4～20 日）の潜伏期間の後、両頬に紅い発疹が現れます。続いて体や手・足に網目状の発疹が広がりますが、これらの発疹は、通常 1 週間程度で消失します。多くの場合、頬に発疹が出現する 7～10 日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常や流産が生じることがあります。

治療

特別な治療法は無く、症状に応じた対症療法が行われます。

予防のポイント

予防接種はありません。予防には、手洗い、咳エチケットが有効です。

保育園や学校など周囲で患者発生がみられる場合、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ患者との接触を避けるよう注意が必要です。

咳エチケット

- ① 咳やくしゃみをする時には口と鼻をハンカチ等でおおきましょう。
- ② 人混みに行く時や会話をする時、咳やくしゃみの症状がある時など、着用が効果的な場面ではマスクをしましょう。